

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4572100677		
法人名	社会福祉法人川水流福祉会		
事業所名	グループホームひえいの郷	ユニット名	A棟
所在地	宮崎県延岡市北方町川水流卯1810番地-24		
自己評価作成日	令和2年5月24日	評価結果市町村受理日	令和2年8月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action\\_kouhyou\\_pref\\_search\\_list\\_list=true](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和2年7月8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

緑に囲まれた当施設では、行事に力を入れています。月に4回～5回のドライブ、買い物、地域交流を目的とした外出、また、行きたい所へ出掛けて頂けるような外出の時間も設けています。また、年3回、特養と合同で行われる行事も、利用者の皆様が参加できるプログラムを組み、楽しんで頂いています。野菜や花を育てる事も意欲的に行っており、夏はグリーンカーテンで日よけを作る事で、利用者の皆様に季節を感じて頂くよう工夫しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

同敷地内にある特別養護老人ホームと連携し四季折々の行事を開催することで、利用者の楽しみや生きがいとなるよう取り組んでいる。同法人が運営する地域交流施設「はなぶさ」を活用し、利用者が地域住民と交流できるよう、またホームの理解につながるよう取り組んでいる。同町にある協力医から定期的な訪問診療があり、些細なことでも相談し、医師から指示がもらえるよう連携を図り、利用者の安心安全な生活の継続に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を提示し、職員の目に入るように工夫している。定期的にミーティングで理念の共有ができるよう話しをしている。	理念を理解、意識した業務が行えるよう定期的にミーティング等で確認している。また、言葉かけや態度、記録等からも、理念に沿ったケアができているか振り返りを行い、理念の実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物で社会活動として支払いをお願いしたり、地域交流の場に出かける事で、地元住民との交流を図ったりと、地域との繋がりを意識した行事に取り組んでいる。	普段から地元商店への買い物や地域交流施設へ出向き、交流を図っている。また、地元幼稚園児の訪問や、ホームからも行事へ利用者と一緒に参加するなど、地域との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物や地域交流の場に出かける事で、地域住民との関わりもでき、その中で情報交換、共有する事がある。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月間行事や、施設での取組、実施の相談等について、運営推進会議で意見をお聞きする事も多い。	家族、利用者の参加があり、意見交換を行い、そこでの意見をサービスに生かすよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事は直ぐに市町村担当者に相談するようにしている。事業所の取り組みや行事の開催について相談させて頂く事もある。	運営に関することなどを相談し、アドバイスをもらうなど、協力関係の構築に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を頻回に開催している。また、3か月に1回、身体拘束委員会の開催も行っている。資料を見たり意見交換をする事で、具体的な身体拘束の理解ができている。	職員勉強会で、定期的に身体拘束について学び理解を深めている。スピーチロックについても、意見を出し合うなど、日々のケアに生かされるよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催し、理解を深められるように努めている。また、ミーティングで職員の対応について話し合いができるような機会を設けている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を開催している。成年後見人制度の利用者がB棟に1名いらっしゃる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の改定時のご理解いただけるように説明を行っている。また、分からない点について電話を頂く事もあり、市に相談する等の働きかけも行った。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から頂いた意見に関しては、申し送りを徹底し、ミーティングで繰り返し報告する事で、職員に周知するようにしている。また、苦情受付については入居契約時に行政機関の連絡先も明記している。		来訪時や電話で、こちらから声掛けすることにより意見や要望を出しやすくなるよう配慮している。出た意見等については、職員全員が共有し運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員会議の際、意見交換を活発にできるような雰囲気づくりを行っている。また、意見反映の為に所長等に相談させて頂く事もある。		管理者は、ミーティングや職員会議等をはじめ、日頃から、話しやすい雰囲気づくりに心がけている。また、職員の提案を代表者に相談し、環境整備に繋げるなど、意見を運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々人の生活や性格に沿って勤務内容を工夫する事もある。条件に伴って臨機応変な対応を心掛けている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特養と合同で行われる勉強会や、事業所内の勉強会、また、外部研修の参加も積極的に行っており、持ち帰った知識、技術に関して、職員間に周知するようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際に、他事業所との意見交換を意欲的に行っている。また、情報共有した事を、ミーティング等で職員間に周知するようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	モニタリングやアセスメント以外の時間も、ご本人の様子を観察しながら、会話する時間を持つようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学を希望されるご家族に関しては、その段階からよく話しをお聞きするようにしている。また、アセスメントや担当者会議においては具体的な要望を聞き出すようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意見のすり合わせに注意しながら、要望等に変更があれば、都度対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で必要な家事において、簡単な洗濯物たたみや干し方等に関しては、利用者の皆さんにお願いしている。職員と共に行う事もあり、感謝の気持ちも伝えるようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の対応で外来受診や健康診断の外出はお願いしている。また、モニタリング時、月に1回発行している郷のたより等でも現在の様子についてお伝えしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事での外出で地域住民との関わりを持てるように支援したり、馴染みのある場所に出かけられるような機会を設けている。		町の中心部にある地域交流施設を定期的に訪問し、顔なじみの方との交流の継続を支援している。月2回それぞれの利用者の「行きたいところ」へ出かけられるよう、要望に沿った外出支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性には十分注意しており、職員が会話の仲介を行う事もある。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて関係機関にご本人の様子等をお伝えする事もある。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の疎通が困難な利用者に関しては、生活の様子から望まれているだろう事柄を検討するようにしている。		日頃の様子や、聞き取った情報から意向を把握し、個々に対応するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係機関に協力頂き情報共有を行ったり、ご家族やご本人からも話しをお聞きしている。その時その時の状況に合わせ、特にご家族に話しをお聞きする事が多い。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の様子や、利用者同士の会話の中からも情報収集するように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやアセスメント以外にも、普段の様子等の意見を反映し、介護計画を作成している。		担当制で、モニタリング表とは別に、1か月ごとに利用者状況をまとめ記録し、介護計画に反映させている。毎日の記録と介護計画を連動させることで、介護計画に沿ったケアが行えるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録に加え、月末には、結果として1ヶ月の状態を記している。日々の申し送りもノートし記し、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的には外来受診等のご家族での対応をお願いしているが、その時々でご家族が対応困難である場合もある。都度臨機応変に対応している。			

宮崎県延岡市 グループホーム「ひえいの郷」(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事への参加で、買い物等に行かれる事がある。お会計をして頂く等、できる事をお願いしている。地域住民との関わりも楽しんで頂いている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に当事業所の協力医の説明を行い、ご家族とご本人の同意の下、定期的な訪問診療受診をしている。また、必要に応じて協力医以外の病院に外来受診に行かれる事もある。	町内にある協力医との連携に努め、定期的な訪問診療を受けられるよう支援している。緊急時には、電話やファックスにて情報提供を行い、医師から適切な指示を受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問診療受診以外でも、日頃から感じた異変、異常、状態の変化については都度報告を行うようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、定期的に病院関係者や、ご家族と連絡を取り、こまめに情報共有できるようにしている。また、退院後も病院に相談させて頂く事もあった。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重症化した場合や終末期についての意見を、ご家族で話し合ってもらい、書類で残すようにしている。また、事業所での対応についても事前に説明を行う手はずとなっている。	入居時に、書面にてホームの方針等の説明を行い家族や本人の意向を確認している。また、定期的に全利用者の家族に書面を送付説明をし、意向やホームの方針の共有を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を開催し、緊急時の対応について話し合いを行っている。また、急変の可能性がある利用者がいらっしゃる際は、職員同士で手順を反復し実践に活かせるようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回避難訓練を実施。台風時期になると避難回数も増える為、全職員が手順を把握している。状況に合わせ様々な災害で避難できるように訓練しているが、年2回は特養と合同避難訓練もある。	土砂災害警戒区域になっており、早い段階で避難することが多いことから、隣接する特別養護老人ホームと合同で訓練を行うなど、災害対策に取り組んでいる。また、地域住民の駆付け訓練も行うなど、協力体制の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに沿った声かけをするように工夫している。また、無理強いしないように注意したり、1人の時間を持ってもらったりと、対応も個別化を図っている。		親しみを込めた言葉かけが、誇りやプライバシーを損ねないよう、出身地等にも配慮し、一人ひとりに沿った言葉かけを心がけ、対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で決められる事をお願いしている。その機会を持てるように職員が働きかける事も多い。また、ご自分の気持ちを伝えてもらえるように、会話する時間を持つようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動や行事、廊下歩行の時間等、活発に動いて頂く時間も多いが、無理強いする事のないようにしている。利用者によっては休む時間も設けており、ご自分のペースで過ごす事ができている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着衣交換時、ご自分で衣類の選択ができるように支援している。また、外出時や特養との合同での行事参加の際は、化粧をする事もある。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間に挨拶をして頂いたり、後片付けをお願いする事がある。また、テーブル拭きをして頂いたりするが、積極的に行って頂いている。		法人内で栄養価や季節感のある献立になるよう検討している。食事前後の挨拶を利用者が担当するなど、利用者間のコミュニケーションづくりにもつながり、食事を楽しむことができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が少ない利用者に関しては、こまめな水分補給を促している。お茶が苦手な方へはスポーツ飲料を提供したり、医師の指示に沿って塩分や主食の量を調節する等、工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方、声かけすればご自分で口腔ケアが可能な方等、一人ひとりに合わせた支援を行っている。自力でも、口腔ケア後に口腔内の確認を行う様にしている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄間隔を把握し、時間を見て声かけにて支援する事もある。また、ズボンの脱ぎ着等、付き添いがあれば行える部分に関しては、ご自分で行って頂けるように声かけしている。		排せつ間隔を把握することで、リハビリパンツから布パンツ使用や夜間帯だけおむつ使用など、排せつの自立に向けたケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になる方もいるが、排便間隔は一人ひとり差がある為、対応に関してはご本人の意思も組むようにしている。また、朝は腹部マッサージの時間も設けている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否されることもあるが、無理強いないように注意している。また、入浴剤を使用したりよもぎ湯等でサービスを提供する事で、入浴の時間も楽しんで頂いている様子である。		よもぎ湯や桜の花びらの造花を湯船に散らし、季節感を出し、入浴を楽しむことができるよう工夫している。また、入浴できない方には、体調に留意しながら清拭対応するなど、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も、利用者の希望に沿って居室で休む時間を優先するようにしている。ご自分で昼夜逆転に関して配慮できる方もいらっしゃるが、理解が難しい方に関しては、職員が時間を見て支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の管理は職員が行っている。インスリン注射を使用する方もいらっしゃる為、申し送りは徹底している。また、内服薬の副作用等に関しても、資料にして配布する等の工夫をしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	活動内容に沿って身体を動かして頂いたりするものの、利用者の希望に合わせ、違う内容を織り込む事もあった。また、活動時間外でも利用者同士で積極的に歌ったりパズルをする姿も見られる。			

宮崎県延岡市 グループホーム「ひえいの郷」(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1か月に2回、希望する外出先をお聞きし、職員、利用者1名ずつで出かける機会も設けている。その際はご家族に連絡し、地域住民の皆さんと顔を合わせる事もある。	活動時間を利用して、庭を散歩するなど、気分転換を図っている。事前に、一人ひとりが希望の場所に外出できるよう聞き取りし、家族の協力も得ながら、外出が楽しめる支援に取り組んでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをご家族からお預かりしており、買い物で外出する際は、そこからお金を捻出している。また、レジでのお会計をお願いする等、社会生活の一場面を担って頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話では、ご本人にも替わって頂く事がある。また、希望があれば職員が代わりにお電話させて頂き、要望をお伝えする事もある。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温、陽が当たる時間帯等に合わせ、過ごしやすい生活環境となるように工夫を行っている。また、夏はグリーンカーテンを作成したり、季節に沿った壁飾り作成等を行って、季節感を取り入れられるようにしている。	共用部分は、採光や空調に気を配り、居心地よく過ごせるように努めている。ラジオを活用したBGMや、移動式畳ベッドなどの家具を配置するなど、利用者がゆったり寛げるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、ホールに座る高さの畳を置く等の工夫を行い、利用者同士で座り会話をしたりする場所になっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真立てや壁飾りを飾っておられる利用者もいらっしゃる。掃除は職員が行うが、整理整頓する際は、ご本人に尋ねて行っている。	家族の写真や思い出の品が自由に持ち込まれ、馴染みの物に囲まれて、居心地良く過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下歩行の時間がある為、廊下には邪魔な物を置かないように工夫している。また、掴まれる場所や座れる場所もある為、無理のない移動にならない工夫がされている。			